

JANOME

ジャノメグループ

環境報告書

2015



当社では、ステークホルダーの皆様へホームページ等を利用して適宜情報を発信してまいりましたが、昨今の社会・環境情報の公開に対する重要性に鑑み、今年度より環境に関する取り組みや社会的活動の状況を環境報告書としてご報告いたします。グラフや写真を用いた分かりやすい報告書を目指し、年1回発行する予定です。報告書についてお気づきの点がございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【対象期間】

2014年4月1日～2015年3月31日

【報告日】

2015年8月3日（年1回発行予定）

【対象範囲】

蛇の目マシン工業株式会社 本社、ジャノメダイカスト株式会社（今後報告対象は順次拡大していく予定）

【報告媒体】

当社ホームページ上に公開（<http://www.janome.co.jp/company/environment.html>）

【参照したガイドライン】

環境省「環境報告ガイドライン2012年度版」

【問い合わせ先】

蛇の目マシン工業株式会社 内部監査室

TEL：042-661-2379 FAX：042-661-2177

E-mail：j-csr@gm.janome.co.jp

【表紙写真】

高尾山にて撮影

CONTENTS

2	トップ・メッセージ	14	社会への取り組み
3	事業紹介	15	従業員への取り組み
4	環境マネジメント体制	17	コーポレート・ガバナンス
7	2014年度の環境パフォーマンス	19	連結経営成績及び財務データ
9	環境負荷低減への取り組み	20	企業データ
13	お客様・お取引先様への取り組み		

当社はこれまで「世界の人々の豊かで創造的な生活の向上を目指す」こと、「常に価値ある商品とサービスの提供を通じて社会・文化の向上に貢献する」ことを企業理念として掲げ、主力製品のミシンのほか、第二の柱として成長著しい産業機器の製造においてISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、環境関連法規制の順守徹底や環境負荷低減活動を実施してまいりました。

そして、地球環境問題が深刻化する中、昨今の社会・環境情報の公開に対する重要性の高まりに鑑み、当社が実施している環境配慮活動を皆さまにお伝えするため、今回環境報告書を作成いたしました。初めてのご報告となりますので、至らぬ点もございますが、ご意見・ご質問などございましたら編集方針に記載されている問い合わせ先までご連絡頂ければ幸甚でございます。

世界を見ると、今年の12月にはフランスの首都パリで気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）の開催が予定されており、2020年以降の新たな枠組みの採択に向けて議論は正念場に入っています。

当社は2021年に創業100年の節目を迎えます。2020年以降を見据える世界と軌を一として、これからも社会の持続的な発展に貢献できるよう一層努力してまいりますので、変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年7月

代表取締役社長

大場 道夫



家庭用機器事業

家庭用機器事業の中でも、家庭用ミシンは創業当時の事業の柱です。当社は老舗ミシンメーカーとして、刺しゅうからキルト縫いまで1台でこなす最高機種から普及品まで幅広く供給しています。また、ミシン製造に留まらず、各支店ではソーイング教室を開催しているほか、「手づくりの楽しさ」を広めるためのコンセプトショップ「ボビナージュ（東京都・吉祥寺）」の運営など、ソーイング文化の普及にも力を注いでいます。その他、24時間いつでも入浴できる「24時間風呂」の製造・販売を行っています。



▲刺しゅうミシン
セシオ14000



▲一般用ミシン
HORIZON
メモリークラフト7700



▲ロックミシン
1200D



▲24時間風呂
湯名人CX

産業機器事業

産業機器事業は、家庭用機器事業に次ぐ第二の柱として成長著しい事業です。ミシンの開発で培った「高精度位置制御技術」をベースに、塗布・ねじ締め・はんだ・基板分割など様々なアプリケーションに対応する「卓上ロボット」、高い精度と簡易操作が特長の「スカラロボット」、速度・位置・荷重を精密に制御する高精度の「サーボプレス」などを開発・販売しています。これらの製品は国内外の自動車部品・IT・エレクトロニクス等の分野で活躍しています。その他、さまざまな産業分野の機器部品に利用されるダイカスト品・石膏鑄造品の製造及び販売をグループ会社で行っています。



▲卓上ロボット
JR3000シリーズ



▲スカラロボット
JSTHシリーズ



▲直交ロボット
JC-3シリーズ



▲サーボプレス
JPシリーズ4

地球環境問題へ貢献すべく、下記の通り環境方針を定め、ISO14001やエコアクション21を軸にした環境マネジメント体制のもと、環境配慮活動を行っています。

グループ環境方針

【理念】

ジャノメグループは「自然と人が調和した地球環境の保全」が人類共通の最重要課題の1つであることを認識し、企業活動のなかで環境の保全に配慮し、社会の持続的発展に貢献する。

【方針】

1. 生産活動と商品・サービスの提供を通じて、CO₂排出量の削減に取り組む。
2. 全ての事業プロセスにおいて3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進し、省資源・省エネルギー化に取り組む。
3. 環境負荷の低減に貢献する製品・サービスを創出し、環境の面からも社会に貢献する。
4. 人や環境に影響を与える有害物質の管理に取り組み、環境リスクの低減を図る。
5. 環境への取り組みについて、積極的に情報を開示する。

2015年7月29日

蛇の目ミシン工業株式会社
代表取締役社長 大場 道夫

ISO14001 認証の継続取得

当社グループでは、2000年に当社東京工場にてISO14001を取得したことを皮切りに、国内生産子会社、海外生産子会社でもISO14001やエコアクション21を取得し、それぞれ環境マネジメントシステムの管理・運用を行っています。

当社では代表取締役社長を最高責任者とし、経営層が任命した環境管理責任者を中心として、環境管理委員会の場でISO活動について報告と協議が行われます。日々の活動は環境マネジメント体制のもと行われており、これらの活動は後述する内部監査でチェックされる他、マネジメントレビューの場で経営層に報告し、指示がなされます。このようにして、PDCAサイクルを回し日々業務改善を行っています。



▲認証登録証

《当社グループのISO認証取得状況》

会社名	ISO14001	ISO9001
蛇の目マシン工業(株)	○(※) 東京工場・研究開発部門	○
ジャノメダイカスト(株)	— (エコアクション21を取得)	○
ハウセイ工業(株)	○	○
ジャノメ台湾(株)	○	○
ジャノメタイランド(株)	○	○
ジャノメダイカストタイランド(株)	○	○

(※) 企画・管理・営業部門については2015年度から対象範囲に追加し活動を開始しています。

内部監査の実施

環境マネジメントシステムが効果的に機能していることを確認するため、年1回内部監査を実施しています。監査の場で指摘された課題はISO事務局のフォローアップのもと改善を行い、最終的には経営層に報告するとともに、各部門にフィードバックが行われます。また、2014年度はISO事務局で監査チェックシートの大幅な見直しを行い、質問文の改善や監査項目のスリム化を図りました。



▲内部監査の様子

環境関連法令の順守

各環境関連法令のほか、各自治体の条例を順守しています。法令・条例等の動向は定期的にチェックし、実態を把握するため自社での環境測定を実施するとともに、必要がある場合は第三者分析測定機関へ測定を依頼して順守状況を確認しています。なお、2014年度は、環境に関連した苦情や事故は発生していません。

PCBの適正保管と処理

ポリ塩化ビフェニル（PCB）はその優れた絶縁性、不燃性からトランス、コンデンサといった電気機器に多く使われていましたが、1968年に発生したカネミ油症事件によりその毒性が大きな問題となりました。日本では1972年以降製造が行われていませんが、PCB廃棄物の長期保管により紛失、漏えいが問題化したことから、2001年に「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」が公布・施行されました。当社ではこの法律に則り廃棄を順次進めており、保管中のものについては、専用の保管庫で厳重に管理をしています。

環境法規制対応に関するセミナーの実施

変化の激しい環境法規制に確実に対応するため、今年度は外部講師を招き、営業部門、管理部門、研究開発部門、生産部門など関連部門を対象に、製品含有化学物質規制の最新動向や製品含有化学物質の管理について講義いただきました。また、2015年3月より社内イントラネットに化学物質管理に関連する情報を記載した「ミニ通信」を配信し、全社レベルで意識向上に取り組んでいます。



▲セミナーの様子

紛争鉱物に対する取り組み

米金融規制改革法（ドット・フランク法）の第1502条・紛争鉱物条項により、コンゴ民主共和国及び周辺国産の金、スズ、タンタル、タングステン等を製品・生産に使用する米国上場企業に対して、米証券取引委員会への報告が義務づけられました。この条項は、1996年以來国内紛争が絶えないコンゴ民主共和国の武装集団の資金源を絶つことを目的としており、米国上場企業に製品を供給している当社グループは、企業の社会的責任の観点からこの問題に積極的に取り組んでいます。

2014年度の環境パフォーマンス

地球環境負荷を低減するため、ISO14001に基づき以下のテーマについて取り組んでいます。本社の実績値とともにご紹介いたします。

2014年度の本社環境目標と実績

(達成：○ 未達成：×)

テーマ	主な目標	主な実績	達成度
3Rの取り組み	廃棄分別 (目標値：対前年実績以下)	廃棄物量：前年度比6,768Kg増	×
	再資源化率の向上 (目標値：対前年実績以上)	前年度比3%改善	○
	事務用紙購入量の管理 (目標値：対前年実績以下)	前年度比135Kg増	×
CO ₂ 削減の取り組み	電気消費量の管理 (目標値：対前年実績以下)	前年度比4,251Kwh増	×
製品・サービスにおける環境への取り組み	環境配慮型製品を開発し提供する	新機種の外装部品軽量化 ミシンランプのLED化推進 環境配慮型製品基準の作成	○
有害物質管理	海外各事業所へセミナー/ 監査を半期に一度行う	各事業所へのRoHS回答模擬監査を実施	○
環境マネジメント体制の維持・改善	ISO14001の認証継続 内部監査員教育 環境関連法規制の順守	定期審査合格(2014年8月) ISO14001内部監査員3名増員(計41名) 環境法規制対応に関するセミナーの実施	○

《マテリアル・バランス》

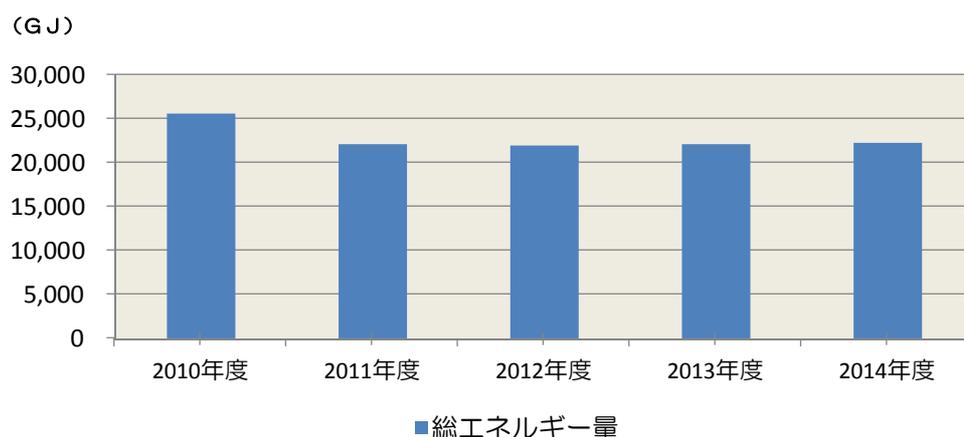
INPUT		
エネルギー	電気	4,411,354 Kwh
	ガソリン	19,412 ℓ
	灯油	278 ℓ
	重油	246,151 ℓ
	LPG	70,449 Kg
水	58,052 m ³	

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	3262.t-CO ₂
廃棄物総量	331,341 Kg 265.78 m ³
リサイクル量	234,116 Kg 99.3 m ³
排水量	58,052 m ³

(※) マテリアル・バランスは、本社及びジャノメダイカスト㈱の2社を対象。
 (※) CO₂排出量は、環境省・経済産業省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル(Ver4.0)」を参照。
 (※) 廃棄物総量とリサイクル量についてはジャノメダイカスト㈱分をm³単位で掲載。

CO₂削減の取り組み（省エネ）

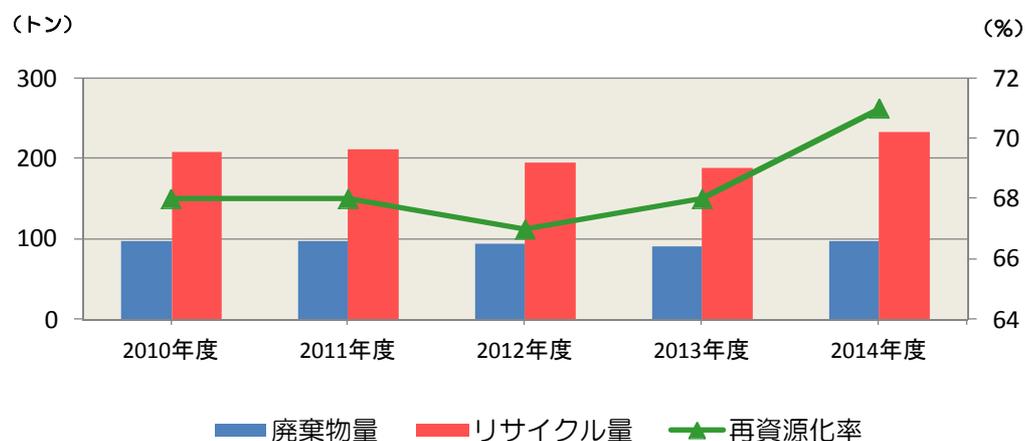
本社の今年度エネルギー使用量は合計22,233GJ、前年度比23GJ（0.1%）の増加となり、ほぼ横ばいの結果となりました。内訳といたしまして、ガソリン、灯油、LPGの使用量は微減、電気使用量は微増となりました。なお、今年度のエネルギー量をCO₂換算した場合の実績は、1187.36t-CO₂となり、前年度より4.2t-CO₂の微増となりました。今後も継続してエネルギー使用量の削減に取り組んでまいります。



※エネルギー使用量は発熱量（GJ/ギガジュール）に換算。ギガは10の9乗倍（10億倍）の量を表します。※発熱量への換算については環境省・経済産業省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver4.0）」を参照。

3Rの取り組み（省資源）

本社の今年度廃棄物量は97.2トンとなり、前年度比で6.8トン（前年度比7.5%）の増加となりました。増加した要因として、産業機器の生産増加による包装資材等の増加や、不在在庫の処分を実施したことが挙げられます。また、リサイクル量は234.1トンとなり、前年度比で44.8トン（前年度比23.7%）の増加となりました。リサイクル量の増加により再資源化率は71%となり、前年度比で3%の改善となりました。



※再資源化率は、リサイクル量を廃棄物総量（リサイクル量+廃棄物量）で除したものの。

環境負荷低減のため、これまでに取り組んだ環境配慮活動についてご紹介いたします。

研究開発での取り組み

LEDライトの採用

LEDライトは通常ミシンで使用されるハロゲンランプと比較して、長寿命であり、熱となって失われる電力を抑えることができます。また、RoHS指令等で規制されているような有害化学物質を含まない点でも環境にやさしい光源といえます。

当社ではミシンランプに使用しているハロゲンランプのLED化を順次進めています。国内で販売されている機種では、メモリークラフト7700、JC7100、JC7030などに搭載されています。



▲メモリークラフト7700のツインライト。
広い作業スペースを明るく照らします。

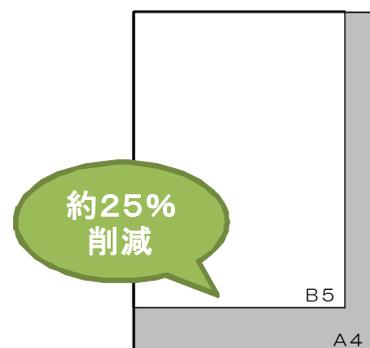
ミシン外装部品の省資源化

製品の省資源化の一環として、ミシンの外装部品に多く利用されているABS樹脂（※）の削減を行っています。これにより、原材料使用量の削減は勿論、製造時のエネルギー消費量削減、廃棄時の環境負荷軽減にも貢献しています。近年の実績としては、一部のミシン製品で同等機種のおよそ6%の質量削減を達成しています。

（※）アクリロニトリル、ブタジエン、スチレンを材料としたプラスチック樹脂。これらの頭文字をとってABS樹脂と呼ばれています。汎用性が高く、3Dプリンターの材料としても使われています。

説明書の小型化の取り組み

当社のミシン製品には説明書が同梱されており、販売数量の増加に比例して、同梱される説明書に使用する紙の量も必然的に多くなります。しかし、2008年12月よりA4サイズで作成していたメカ式ミシンの説明書を順次B5サイズに切り替えており、現在も切り替え対象を増やしながらこの取り組みは続いています。右図のように、B5サイズで作成すると、そのページ数が同じであれば約25%の紙使用量の削減につながっています。



調達での取り組み

グリーン調達ガイドラインに基づく調達活動

ジャノメグループでは2011年に「グリーン調達ガイドライン」を制定し、RoHS指令、REACH規則をはじめとした様々な化学物質規制に対して、法令を順守すべく適切な対応をとっています。具体的には、本ガイドラインに基づきサプライヤー各社の協力を得ながら、規制物質含有の有無や含有量の調査を行っており、不適合なものについては適合させるようにしています。

2015年2月には「グリーン調達ガイドライン Ver. 1.6」を発行し、RoHS指令の適用除外項目や、欧州化学物質庁から公表されたSVHC（高懸念物質）の各リスト更新を行っています。



▲グリーン調達ガイドラインは日本語版、英語版、中国語版の3種類を発行しています。

グリーン調達ガイドライン <http://www.janome.co.jp/company/greenguideline.html>

生産・物流での取り組み

スクリーン印刷用シンナーの使用量削減

製品に当社ロゴをプリントする際には主にスクリーン印刷という方法が使われていますが、使用される版下は、目詰まり防止のために定期的にシンナーを用いて洗浄しています。省資源の観点から、2014年度に洗浄用シンナーの削減に取り組み、2つに分けていた版下を1つにすることや、シンナーの入ったボトルの注ぎ口を小さくするなどして、前年度の年間使用量と比べ5%の削減を達成しました。



▲注ぎ口が小さくなり、一度に使うシンナーの量を節約することができます。

東京—大阪間の帰り便利用

帰り便とは荷物を運び終えた運送用トラックを利用して、別の荷物を出発地まで運ぶことをいいます。大阪方面に輸送する荷物がある場合は極力帰り便を利用し、新規に配送を手配した場合と比較してCO₂排出量を2,184kg削減することができました。

その他の取り組み

新入社員による高尾山清掃登山

当社の新入社員22名が新入社員研修の一環として、高尾山（八王子市）での清掃活動を実施しました。高尾山は当社のほど近くにあり観光地として有名なスポットです。地域貢献型の環境配慮活動として、今後も継続的に実施してまいります。



▲清掃活動を通じて新入社員同士の親交も深まりました。



▲清掃活動の様子

廃棄物分別の徹底

事業所内の一般廃棄物については、可燃ごみと不燃ごみに分別し、リサイクル可能な空き缶、ビン、ペットボトルについても専用のボックスで回収しています。ペットボトルはラベルとキャップまで分別することを徹底しています。工場では有価物やリサイクル可能な部品を分けるため、より細かい分別を実施しています。



▲事業所内の分別所



▲工場での分別の様子

太陽光発電システムの導入

太陽光発電システムは、太陽光エネルギーを直接電気に変換する発電方式で、地球温暖化の原因とされている二酸化炭素（CO₂）を出さないクリーンなエネルギーとして注目されており、深刻化するエネルギー資源問題の有力な解決策の一つとされています。当社では、2013年11月に太陽光発電システムを東京工場2号棟の屋上に設置しました。2014年度の発電実績は132,598Kwhとなり、これを二酸化炭素の削減量に換算すると、53,834.8kg-CO₂になります。

※CO₂排出量換算係数は、東京電力より公表された「2012年度のCO₂排出原単位等の実績について」を参照。



▲屋上に設置されているソーラーパネル

エアコン設備の変更による冷暖房の効率化 (ジャノメダイカスト㈱)

ジャノメダイカスト㈱では、老朽化が進んでいた事務所と食堂のエアコンを、よりエネルギー消費効率が高いものに変更しました。この対応により、事務所内に4台設置していたエアコンを2台に減らすことができました。また、個々のエアコンのエネルギー消費効率も上がることで、年間約18,000Kwhの電気使用量削減を見込んでいます。



▲事務所に導入したエネルギー消費効率の高いエアコン

営業車のハイブリットカーへの切り替え (ジャノメダイカスト㈱)

ジャノメダイカスト㈱では、営業車を環境配慮型のハイブリットカーに全て切り替えています。営業活動に自動車は欠かせませんが、ハイブリッドカーの導入やエコドライブを心がけることで、身近なところから環境配慮意識を高め、CO₂排出量の削減に取り組んでまいります。

お客様からの信頼を守るため、品質保証体制、カスタマーサービス体制を整えています。また、公正公平な購買活動を進め、お取引先様との信頼関係を構築しています。

お客様との関わり

品質保証体制

当社は、品質マネジメントの国際規格であるISO9001を取得し、品質方針のなかで言明している「魅力的な製品とサービスを提供し、お客様の満足と信頼を得ること」を積極的に推進しています。また、品質保証部を中心に、当社グループ全体の品質保証活動を推進しており、当社及び国内外の関連会社において生産するマシン、産業機器などに対する品質監査と品質状況の把握に努めています。

カスタマーサービス

当社は、全国のお客様のお問い合わせにオペレーターが直接お答えする「お客様相談室」を設置して、マシンや24時間風呂について、使用方法の説明や修理対応など年間約3万件のお問い合わせに対応しています。その中でも、問い合わせ頻度の高いマシンの使用方法については、ホームページ上に「よくあるご質問」としてまとめ、解決方法をいつでもご覧いただけるようにしています。お客様から製品等についてご指摘いただいた内容については、関連部署と情報共有し、製品開発や業務改善に活かしています。また、産業機器については、お客様からのご要望やアフターサービス等に迅速に対応する専門部署を設けて対応しています。

お取引先様との関わり

製品をお客様へお届けするまでの間には、多くの皆様の協力が必要です。当社は、良好なパートナーシップを構築するため、取引においては、あらゆる法令、社会的規範を厳格に順守し、公正・透明な企業活動を展開しています。「蛇の目マシン協力会」では、75社のお取引先様（2015年3月末現在）とともに、毎年研修会を実施する他、親睦を兼ねた懇親会も開催するなど、会社相互の親睦と融和を図ることを目的に活動をしています。



▲蛇の目マシン協力会定時総会の様子

社会とのつながりを大切にし、様々なステークホルダーの皆様と積極的に関わっています。

ピンクリボン運動への参加

ピンクリボンとは乳がんに対する正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進するなどを目的として行われている世界的キャンペーンのことです。当社ではピンクリボンモデルミシンを6機種選定し、これらの売上の一部を(財)日本対がん協会の「乳がんをなくす ほほえみ基金」に寄付しています。ほほえみ基金で集められた寄付金は主にマンモグラフィや検診機器の整備、医師・放射線技師の育成、患者支援などに役立てられます。

会社見学の受け入れ

八王子市にある本社において、教育機関や地域の皆様に向けた会社見学を実施しています。2014年度は都立産業技術高等専門学校と市立元八王子小学校の皆様が訪れ、ミシンに必要な部品や布が縫われる仕組みの解説の他、工場内の様子、ミシンを用いた作品、産業機器のデモンストレーションなどを実際に見学していただきました。最後には質問会を行い、当社についての理解を深めていただきました。



▲工場見学の様子

夏休み親子手づくり教室の開催

本社所在地である八王子市を中心とした住民の皆様を対象に、親子で取り組むソーイング教室を開催しています。2010年に開催して以来、毎回満員の人気イベントとなっており、2014年度は「カラフルキャンバスリュック」を作りました。ミシンへの興味を広げていただくとともに、親子で1つの作業に取り組むことで、互いに普段とは違う一面を見ることができている機会にもなっています。



▲教室の様子

株主様・投資家様との関わり

2014年6月20日(金)に第88回定時株主総会を開催し、89名の株主様にご出席いただきました。また、株主様には、年に2回株主通信を発行し、事業概要等についてご報告しています。

また、投資家の皆様とのコミュニケーションを図るため、マスコミを含む証券アナリストの方々を対象とした決算説明会を2014年5月と11月に開催いたしました。その他、ホームページ上でもさまざまなIR情報を掲載し、株主・投資家の皆様への適時適切な情報提供に努めています。



▲決算説明会の様子

従業員一人ひとりが、いきいきと働くことができる職場づくりを目指しています。

多様性の尊重

女性の積極的活用・次世代支援

当社は、ワーク・ライフ・バランス推進の観点から育児休業制度や介護休業制度、フレックスタイム制度等の整備を進め、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣が認定する「くるみんマーク」を2008年に取得しています。

この他、女性従業員に対するキャリアアップ研修・階層別研修等を進め、管理職候補の女性従業員の意識・スキルの向上を図るため、「女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画」を策定し、2020年までに女性管理職を10%（2015年3月現在）から20%にすることを目標に掲げています。



▲くるみんマーク

女性の役員・管理職登用にに関する自主行動計画

http://www.janome.co.jp/company/diversity_woman.html

定年退職者の再雇用、障がい者雇用への取り組み

経験、知識、知恵の継承と、60歳以上の従業員の活躍の場を確保することを目的として、当社は2006年より「定年後再雇用制度」を導入し、原則として希望者全員が65歳まで働くことができるような体制を整備しており、多くの従業員が本制度を利用して勤務を続けています。また、障がい者の雇用を推進しており、2015年3月末時点の障がい者雇用率は2.31%となっています（法定雇用率は2.0%）。

人権啓発のための取り組み

当社は行動憲章に「すべての人の人権の尊重はもとより、文化や慣習に配慮した事業活動を推進して、各国・地域の発展に貢献」することを謳っており、その教育の一環として、管理職以上を対象に継続的に人権啓発研修会を開催しています。この研修会の講義内容は要約され、従業員に配付しています。

また、年に一度人権啓発推進委員会、人権啓発推進者連絡会議を開催し、人権啓発活動の基本方針や進捗状況を確認しています。さらに、12月4日から12月10日までの「人権週間」に合わせて人権啓発標語を社内で募集し、入選作品を当社代表作品として外部団体に応募するなど、人権をより身近に感じるための機会も設けています。



▲研修会の様子

労働安全衛生

多様な相談窓口の設置

当社では2012年に「心の健康づくり計画」を策定し、活気ある職場づくりに取り組んでいます。取り組み例として、社員が抱える問題に応じて3つの相談窓口を設置しており、法令違反が疑われる場合に顧問弁護士へ相談できる「内部通報窓口」、セクシュアル・パワーハラスメントに関する相談を専門に受け付けている「ハラスメント相談窓口」、公私を問わず様々な悩みを産業カウンセラーに相談できる「従業員相談室」があります。



▲従業員相談室は、専用の個室を設けています。

自衛消防訓練・AED訓練

東京消防庁八王子消防署浅川出張所様にご協力をいただき、本社従業員全員を対象とした自衛消防訓練を実施しました。本社3号棟1階の東京工場から出火したという想定のもと、社内一斉放送から避難人員報告まで実施した後、消火器による初期消火や屋外消火栓を使用した放水訓練を行いました。

また、この訓練とは別に、屋内でAED（自動体外式除細動器）訓練を行い、3人1組でトレーニングキットを使った胸骨圧迫による心肺蘇生、AEDの使用法を実践しました。



▲初期消火訓練の様子



▲AED訓練の様子

安全運転講習会の実施

当社には自動車・バイク・自転車を利用して通勤している従業員が多いことから、従業員の交通ルールに対する意識向上を目的として、主に車両を運転する従業員を対象に、警視庁高尾警察署様にご協力いただき、毎年社内で安全運転講習会を実施しています。今回は本社の所在地である八王子市内の交通事故事例や歩行者の立場からの交通安全について講演いただきました。



▲講習会の様子

基本的な考え方

当社及び当社グループは、企業の社会的責任を果たすにはコーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、各ステークホルダー（利害関係者）の皆様と健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保するとともに、関係法令・定款等を順守する経営を実現してまいります。

コーポレート・ガバナンス体制

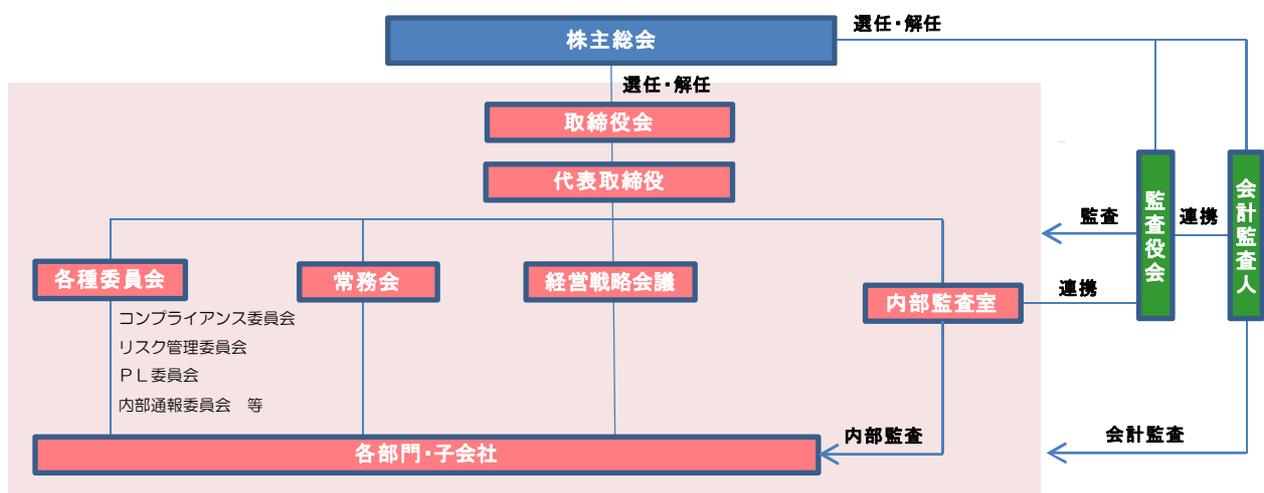
意思決定・業務執行体制

取締役会において、経営に関わる重要事項の決定と取締役の職務執行状況の監督を行っています。取締役会の下に、常務会を置き、迅速な意思決定により経営効率を向上させるとともに、執行役員制度を採用して、機動的な経営を目指しています。なお、執行役員以上をメンバーとする経営戦略会議において、各部門における諸問題について十分な検討・協議等を行い、情報の共有化に努めています。また、経営監督機能とコーポレート・ガバナンス強化の観点から社外取締役を1名選任しています。

監査体制

監査役は取締役会ならびに常務会等重要な会議に出席し、適宜、必要な意見を述べるとともに、取締役より説明、報告を求め業務が適正に執行されていることを監査しています。3名の監査役のうち、2名につきましては、それぞれ法務や財務の高い専門知識を有する社外監査役を選任し、取締役会及び監査役会等を通じて、意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っています。また、内部監査室では、当社グループの内部統制の整備及び本社、グループ会社の監査を行い、定期的に取り締役に報告しています。

《コーポレート・ガバナンス体制図》



コンプライアンス体制

コンプライアンス違反の未然防止のため、当社ではコンプライアンス委員会を設置し、グループコンプライアンス体制の整備や教育、情報の収集などを行っています。近年の主な推進活動として、コンプライアンスメールマガジン、コンプライアンス便りを定期的に配信している他、守るべきコンプライアンス事項をコンパクトに解説した「コンプライアンス・ハンドブック」の配付、毎月初めにパソコンを用いたコンプライアンスチェックを行っています。その他、組織的または個人的な法令等違反や企業倫理上問題のある行為について、相談または適正な処理をするための窓口として「内部通報窓口」を設置しています。外部の弁護士を相談先として、派遣社員等を含む国内グループ会社の全従業員が利用できるような体制をとっています。

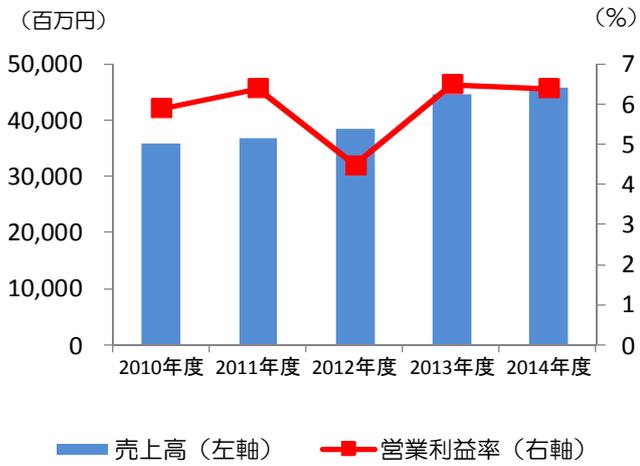
リスク管理体制

リスクの回避を図るとともに、リスクが顕在化した際にその影響を最小限に留め業務の早期復旧をするため、当社はリスク管理委員会を設置し、グループリスク管理体制の整備や教育、情報の収集などを行っています。特に首都直下型地震や新型インフルエンザ、IT業務については、別途BCP（事業継続計画）を策定し、それぞれ緊急時の体制や事前対策の計画・検討、発生時の対応について定めています。また、災害発生時の留意点や基本的な対応についてまとめた「災害対策マニュアル」を従業員に配付している他、安否確認システムを導入し、有事の際に従業員の安否が確認できる体制を構築しています。

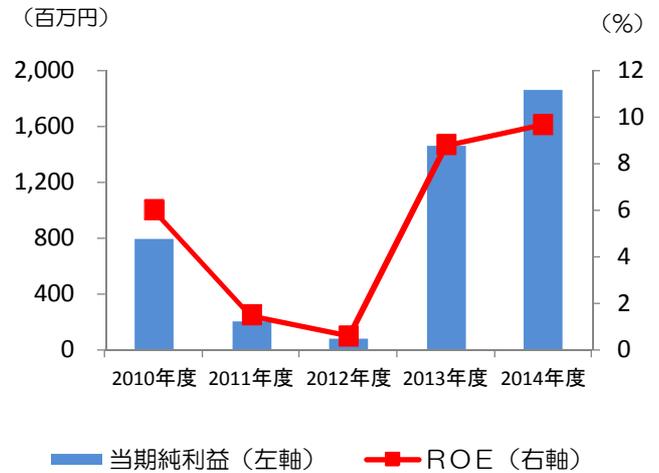
個人情報保護体制

事業活動を通じて取得した個人情報は、業務を遂行する上で大変重要なものであると同時に、プライバシーに関わる大切なものです。当社はグループ行動憲章に「情報の適正管理」を謳っており、これを実現するため、個人情報管理委員会を設置して社内規定に基づき個人情報保護計画を策定し、監査、社内研修等を行っています。社内研修につきましては、毎年「個人情報保護社内研修会」を管理職向けに実施しています。

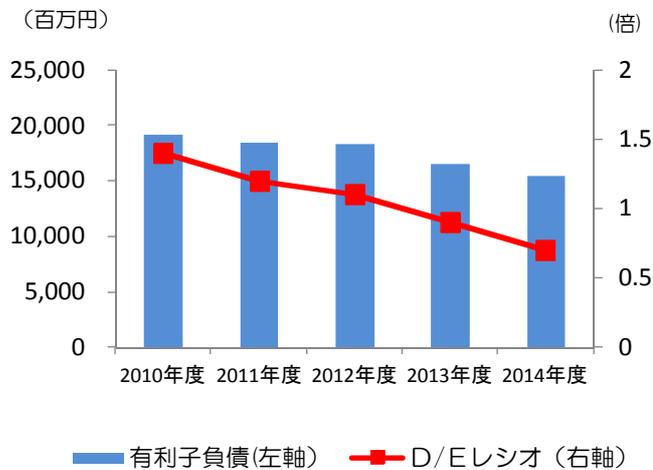
●売上高・売上高営業利益率



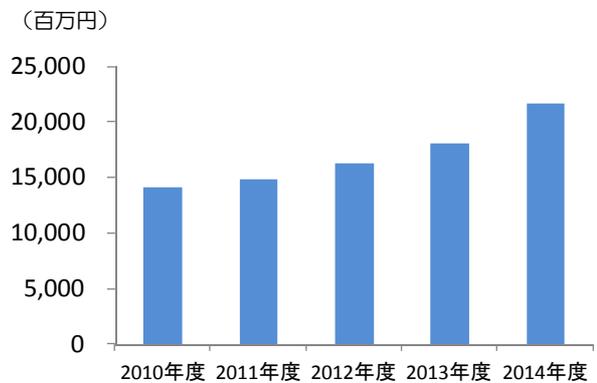
●当期純利益・自己資本利益率 (ROE)



●有利子負債高・負債資本倍率 (D/Eレシオ)



●純資産



売上高営業利益率 = 営業利益 ÷ 売上高 × 100

自己資本利益率 (ROE) = 純利益 ÷ 自己資本 × 100

負債資本倍率 (D/Eレシオ) = 有利子負債 ÷ 純資産

会社概要

社名	蛇の目ミシン工業株式会社
創業	1921年10月
設立	1950年6月
本社所在地	東京都八王子市狭間町1463番地
代表	代表取締役社長 大場 道夫
資本金	113億7,300万円
連結従業員数	3,528名
決算日	3月31日



ジャノメミシンの歴史 <http://www.janome.co.jp/company/hstry1.html>

子会社

【国内】

- ジャノメダイカスト(株) ●ホウセイ工業(株) ○(株)ジャノメクレディア ○(株)ジャノメサービス
- (株)サン・プランニング

【海外】

- ジャノメ台湾(株) ●ジャノメタイランド(株) ●ジャノメダイカストタイランド(株)
- ジャノメアメリカ(株) ○ジャノメUK(株) ○ジャノメオーストラリア(株)
- ジャノメカナダ(株) ○ジャノメニュージーランド(株) ○ジャノメラテンアメリカ(有)
- ジャノメヨーロッパ(株) ○ジャノメドイツ(有) ○ジャノメメキシコサービス(有)
- ジャノメブラジル(有) ○エルナスイス(株)
- ジャノメインダストリアルエクイPMENT アメリカ(株) ○ジャノメインダストリアルエクイPMENTヨーロッパ(有)
- ジャノメインダストリアルエクイPMENT上海(有) ○ジャノメインダストリアルエクイPMENT台湾(株)

●生産拠点 ○販売・サービス拠点

国内グループ会社・海外生産会社 <http://www.janome.co.jp/company/group.html>

海外販売会社 http://www.janome.co.jp/company/overseas_sales.html

JANOME

環境報告書
2015

